

緑井城跡（仮称）の発掘調査について

現時点での調査概要

本遺跡は、平成29年10月から中世の山城跡を確認するため発掘調査を開始しました。立地を見ると、中世の国人領主 香川氏の本拠があった八木城跡と香川氏関係の城とされる中城跡の間に位置し、両城跡や太田川を見渡せる眺望の良い場所です。ただ、現時点では山城跡であることを裏付ける遺構や遺物は見つかっていません。

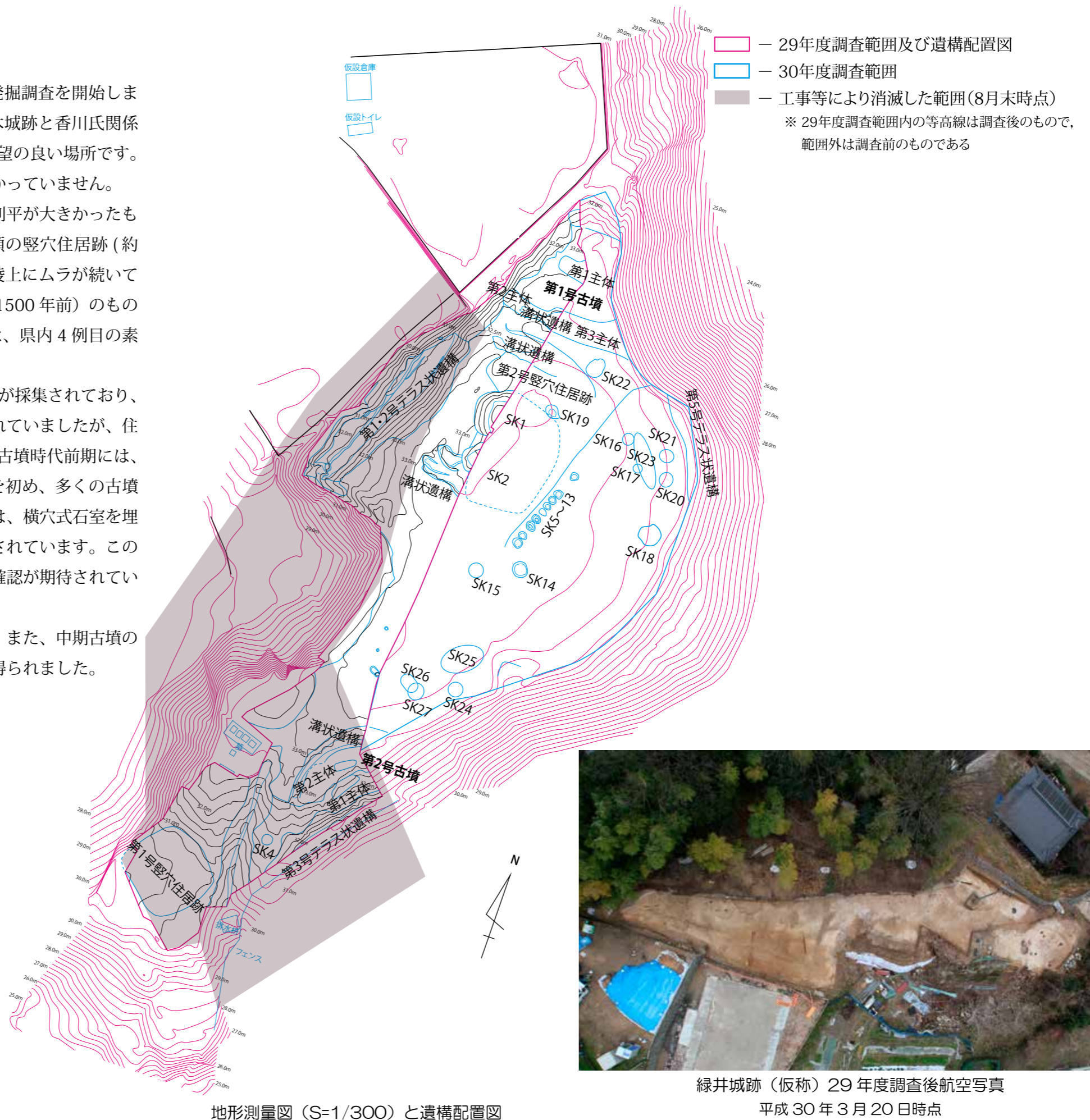
調査では、弥生時代に始まるムラの跡を確認しました。後世の削平が大きかったものの、弥生時代後期前葉（約1900年前）の土坑や古墳時代初頭の竪穴住居跡（約1700年前）が見つかり、弥生時代後期を中心に長い間、この丘陵上にムラが続いていたことが推定できました。また、古墳時代中期頃（約1600～1500年前）のものと考えられる古墳を2基確認し、特に、第2号古墳第1主体には、県内4例目の素環頭大刀が副葬されていました。

八木・緑井地区では、以前から弥生～古墳時代の土器などの遺物が採集されており、八木地区の細田・細迫遺跡で行われた発掘調査では貝塚も確認されていましたが、住居跡など確実なムラの跡は見つかっていませんでした。一方で、古墳時代前期には、がもんたいしんじゅうきょう画文帯神獣鏡が出土した竪穴式石室を持つ宇那木山第2号古墳を初め、多くの古墳が築造されていることが分かっています。また、古墳時代後期には、横穴式石室を埋葬施設とする古墳が広島市域でも可部地区に次いで集中して築造されています。このことから、古墳築造の背景となる弥生時代から古墳時代のムラの確認が期待されていました。

本調査では、八木・緑井地区で初めて弥生ムラの跡が確認され、また、中期古墳の調査も実施できたことで、地域の歴史を考える上で貴重な成果が得られました。



緑井城跡（仮称）周辺航空写真
平成29年10月31日時点



地形測量図（S=1/300）と遺構配置図



緑井城跡（仮称）29年度調査後航空写真
平成30年3月20日時点

ムラの遺構

第1号竪穴住居跡

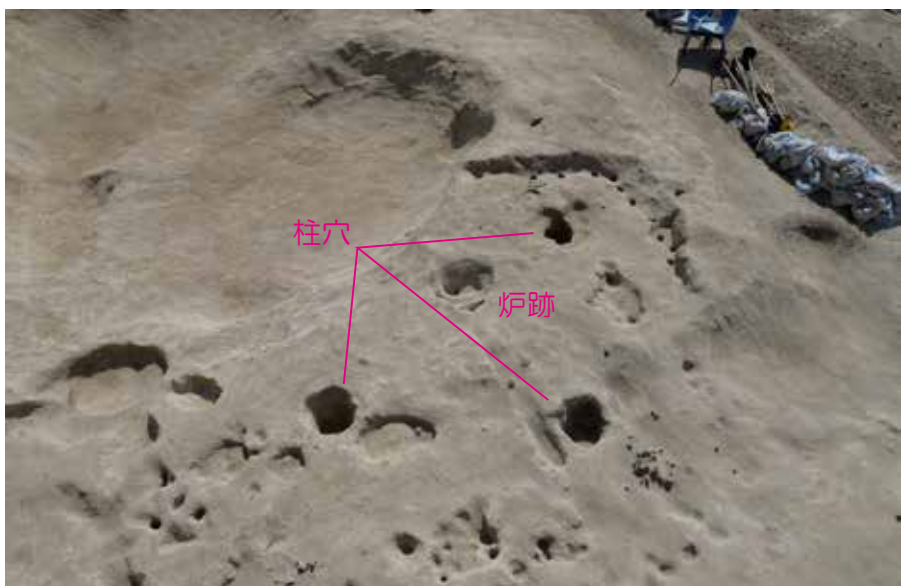
1辺約6m、広島湾岸では大型の隅丸方形の竪穴住居跡です。(29年度撮影)



第2号竪穴住居跡

壁の一部と3つの柱穴、炉跡と考えられる穴が見つかりました。本来は隅丸方形で4本柱の住居であったと想定されます。

床面から古墳時代初頭頃の岡山地域の特徴を持つ土師器が出土しており、このムラが廃絶した頃のものと考えられます。



SK18 土器出土状況

土坑の底近くから、土器片や石器が見つかりました。土器はこのムラが廃絶した古墳時代初頭頃の特徴を持っています。





SK20 土器出土状況

土坑の中に埋まった土の上層から、大量の土器片が見つかりました。貯蔵穴としての役割を終えたため、土器が廃棄されたのでしょうか。土器の特徴は弥生時代後期前葉のものであるため、このムラが始まった頃のものと考えられます。



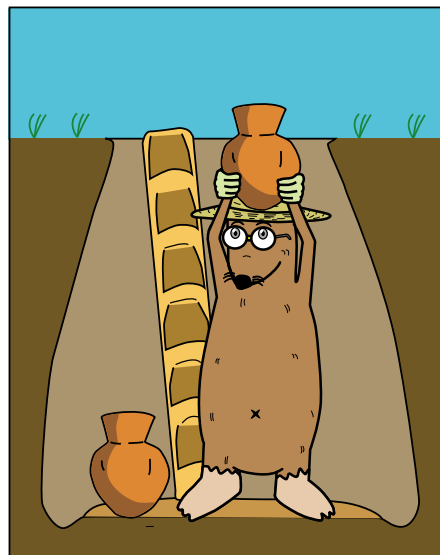
SK22 半裁状況

土坑の中に埋まった土を半分だけ掘り、土層を確認している状況です。底にいくほど広がっている袋状土坑です。

参考



復元竖穴住居
対岸の安佐北区真亀の恵下山遺跡に復元されている竖穴住居です。



袋状土坑

入口はせまく、底が袋やフラスコのように広がっている土坑です。縄文時代から見られる土坑で、温湿度の変化を少なくし、食料を保存するために、この形になっています。

第1号竪穴住居跡上 土器出土状況

住居の床上にたまった土からは、古墳時代の土師器（素焼きの土器）や須恵器（窯で焼成した青みがかかった土器）が見つかっています。これらの遺物は住居の使用時期とは異なる可能性があります。（29年度撮影）



第1・2号テラス状遺構

テラス状遺構とは斜面を削りこんだりして作った平坦面のことで、住居を立てたり作業をする場所などに使用しました。古墳時代初頭の土師器や粘土が出土しました。（29年度撮影）



時期不明の遺構

SK1・2

大きな土坑ですが、時期や用途は不明です。埋まっている土からは、近世以降の新しい時期と考えられる陶磁器や土器片が見つかっていることから、近世から近代に何らかの理由で掘られたものと考えられます。



古墳の遺構

第1号古墳

墳丘中央に第1主体、周溝内に第2・第3主体が見つかりました。(29年度撮影)

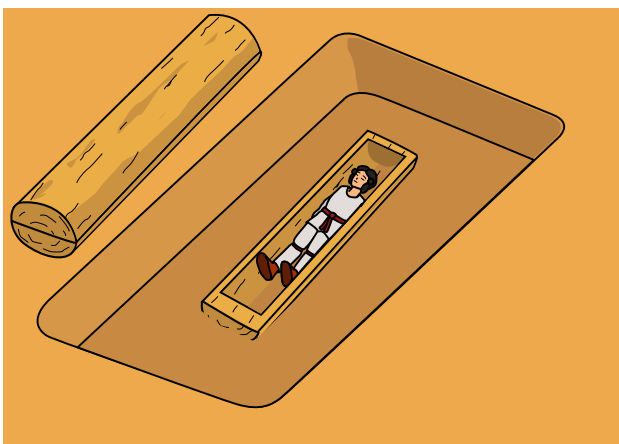


第1号古墳 第1主体

丸太をくりぬいた舟底状の木棺の痕跡が残っていました。棺の長さは約4mもあり、数点の鉄製品が副葬されていました。(写真左：29年度撮影・右：延長箇所含め30年度撮影)



参考



舟底状の木棺と埋葬イメージ図

第1主体は上部が後世に削られて残っていませんでした。そのため、詳しい埋葬の方法がわかりません。ただ、残った部分から推定すると、外側に大きな墓穴を掘り、中に木棺を収める小さな墓穴を掘った二重の構造だったと考えられます。



第2号古墳

墳丘は南側が流失していましたが、北側に周溝がめぐり、埋葬施設として第1・2主体が見つかりました。(29年度撮影)



素環頭大刀と鏃



斧と鎌

第2号古墳 第1主体

第1主体には素環頭大刀・鏃・斧・鎌・刀子・鏃等の鉄製品とガラス小玉8点が副葬されていました。(29年度撮影)

第2号古墳第1主体出土の鉄製品



そかんとうたち
素環頭大刀

つか
柄の頭に環状の飾りをつけた大刀で県内4例目の出土です。



かすがい
鉾

木棺に使用したものと考えられます。



鎌



ふくろじょうてつ
袋状鉄斧

木製の柄を袋状に折り曲げた部分に差し込んで使用します。



ちょうけいそく
長頸鏃

小さい刃部と長い頸部を持つやじりて、矢柄に装着する茎部には木質が残っているものもありました。